



令和 2 年 6 月発行
第 30 号

3 才女児作
「おともだち」

コロナ禍を越えて

理事長 村松 満

今年の 1 月末ごろから始まった新型コロナウイルスの蔓延は、瞬く間に全国に波及し、4 か月たった今も、勢いがやや衰えたとはいえ、収束の気配は見えません。

この間、わが法人内においても何度か緊張の走る事態に見舞われました。職員の一人が感染を疑われる人と接触をしてしまったケースや、微熱や咳が続き、体調もすぐれないと訴えるケース、また、子ども達の中にも高熱を出し、肺炎の疑いがあると診断される子も出るなど、次々と心配な事案が発生しました。

施設長を始めとする職員の心労は如何ばかりであったかと推察します。

法人としても、緊急事態宣言の発出前から対策本部を設置し、不測の事態への対応を検討していましたが、いざ、現実感染の脅威が身近に迫ってくると、「施設閉鎖」といった最悪の事態さえ頭をよぎるほどに、危機感が高まりました。

幸い、これらの各事案は、後にコロナとは関係のないものであることが判明し、大きな混乱もなく収拾しましたが、この時の緊張感は、それぞれに半端なものではなかったはずです。危機に際し、冷静に対応していただいた職員の皆さんには、深く感謝し、敬意を表したいと思います。

さて、そういう中であっても、子ども達は長引く休校にもめげず、外で元気よく遊び回っています。仲間達や職員とともにスポーツなどに打ち興じる姿を目にすると、心が和みます。

周囲にいる我々が、徹底して感染予防に気を配り、子ども達への感染を防ぎきらねばならないという思いが湧いてきます。

今から 100 年ほど前の 1918 年、世界中にスペイン風邪といわれる感染症が流行しました。日本でも 2300 万人余の患者が発生し、38 万人もの人が亡くなったといえます。しかし、明けない夜はないと言うが如く、その後 2 年足らずのうちに収束し、世界に明るさが戻ってきました。医療水準の高い今日、人類の英知はより速く収束を実現させるでしょう。

世界の歴史上、稀にみる事態に遭遇している私達には、この機を無駄にせず、後世に伝えていくべき様々な処方箋を作り出していくことが、求められているような気がします。

とりわけ、未来に生きる子どもたちには、是非、その伝え手として、しっかり現実を直視し、今を過してほしいと思います。

窮屈に感ずる自粛の中でも、「生活は自粛しても想像力は自粛しないで」と、テレビで語っていた某お笑い芸人の言葉がなぜか印象に残っています。

こうした前向きな姿勢こそ、目の前の困難を乗り越える秘訣ではないかと、今思っているところです。

中期経営計画を策定しました

常務理事 野村 みゆき

昨年度、法人は 2020 年度から 2024 年度まで 5 年間の中期経営計画を策定しました。これは、近年法人が経営する 2 施設を取り巻く環境や社会福祉法人改革が進む中で、今後の法人の在り方、施設の果たすべき役割を明確にするためです。

国全体では少子高齢化に歯止めがかからず、児童数は減少し続けていますが、児童虐待や DV 被害は増えており、児童福祉施設の役割の重要性は更に高まっています。

そのような中、国は 2016 年に児童福祉法を改正し、実現の方策として「新しい社会的養育ビジョン」を発表しました。更に、昨年度東京都は「東京都社会的養育推進計画」「東京都ひとり親家庭自立支援計画」の改定を行いました。これらの国・都の動向を踏まえて、わが法人が今後 10 年先に目指すところを見据えて直近 5 年間の経営計画の策定に至りました。

計画の中身ですが、主な課題は 4 つです。

1 つ目は、法人本体の経営力の強化や事業戦略を進めるために組織力を高めて、地域の社会福祉法人としての信頼を更に確保する。また、職員が安心して働き続けることができる環境整備を行う。

2 つ目は、こどものうち八栄寮の子どもたちに、家庭と同様の養育が行える環境を整える。

3 つ目は、リフレここのえの地域のひとり親家庭を支える施設としての機能強化を図っていく。

4 つ目は、地域の公益的事業である無料塾などの子育て応援事業の継続性を確保する。

これらを計画的に推進するために、いくつかの検討会を今年度から開始します。また、この目標を達成していく職員の育成も同時に進めます。計画の詳細は紙面の都合で省略しますが、ホームページでご確認いただければ幸いです。

この計画を理想で終わらせないために、全ての職員が同じ方向を目指し、時には振り返り、また次の目標を定めて進めてまいります。



【各施設在籍者・利用者数】

（令和 2 年 5 月現在）

こどものうち八栄寮	リフレここのえ	八王子市子ども家庭サービス事業利用者数
幼児 9 名 小学生 21 名	乳幼児 27 名	令和元年 12 月～令和 2 年 5 月末
中学生 9 名 高校生 10 名	小学生 7 名	ショートステイ 232 名
専門 2 名	中高生 0 名	トワイライトステイ 17 名
【計 51 名】	【計 20 世帯 54 名】	合計 249 名

新型コロナウイルス感染症と未来

児童養護施設こどものうち八栄寮 施設長 大村 正樹

今、新型コロナウイルス感染症が世界中に蔓延している。日本でも緊急事態宣言が出された。八栄寮の子ども達も学校はお休み、不要不急の外出は禁止、親子交流も制限され、不自由な生活を送っている。中学3年生、高校3年生の子ども達の進路・就職がどうなるのかなど、この先の不安はつきない。

この状況は長期化する、私達の生活スタイルを大きく変えなくてはならない、と専門家は言っている。

世の中が大きく変わることは今までもあった。今から約70年前、日本は戦争に負け、戦後の大混乱期を迎えた。巷には孤児・浮浪児があふれた。子ども達を守るために、私達の先人は児童養護施設をつくった。「こどものうち七栄寮」と「こどものうち上野寮」だ。

しかし、お金も何もない時代だった。職員と子ども達は原野を切り開き、建物を建てた。畑を耕し、落花生や野菜を作った。豚や鶏も飼った。全てが生き抜き、未来を切り開くためだ。これが八栄寮の理念「こどもと共に生活し、共に歩み、未来へ生きる」の原点だ。

いつか新型コロナウイルス感染症は終息し、そのとき社会も変わっているだろう。

そのときまで、八栄寮の理念を大切にし、子ども達と共に、私達の生活を守りぬき、未来を切り開いていきたい。



ドキドキの新入学生、新入園児さん！
盛大なお祝いパーティーはできませんでしたが、新しい制服、ランドセル姿をお披露目しました。

※プライバシー保護のため写真を加工しています。

希望の光

児童養護施設こどものうち八栄寮 ソーシャルワーカー 内山 せかい

施設の子ども達は高校生になると、卒業と共にやってくる退所後の生活について（一人暮らしか親元か、進学か就職かなど）職員と共に考え選択していく。この春、八栄寮を退所した子ども達の中にも4名の高校3年生がいた。

A君とB君は特別支援学校に通い、将来はサポートのある障がい者のグループホームへの入所を希望していた。退所後の生活場所を探すにあたり、膨大な数の社会資源の中から探すことはとても大変なことであった。養育協力家庭の方や見学先の施設の方など、多くの方々からアドバイスを受けながら数十箇所の見学を行い、二人に合う最適な場所を高校1年生の時から探していた。ところが、A君には制度上の問題が、B君には受け入れ先が見つからない状況が暫く続いた。高校3年生の5月になってもまだ確定ができず、本人達も私達も先の見えなさに不安を抱えていた。しかし、チームとして諦めずに探し続けること、私達の思いを伝え続けたことでその後、さらに多くの方が動いてくださった。親御さん、児童相談所や市役所、障がい者支援センター、学校との連携も大きな力となり、二人の入居先を無事見つけることができた。

A君が新居で念願のテレビを購入し、自分の部屋を嬉しそうに見せてくれた。その時、子どもの未来を想って諦めずに動くことの大切さを実感した。あの笑顔が今でも忘れられない。新しいステージで自らの道をこれからも元気に歩いて欲しい。八栄寮から応援していきたい。



新型コロナウイルス感染拡大防止のため、
今年は毎年恒例のこどもの日フェスティバルは残念ながら開催を見送りました。
八栄寮内では厨房職員が可愛い食事を作ってくれて各小舎で楽しみました♪

子ども達と共に成長すること

児童養護施設こどものうち八栄寮 児童指導員 佐藤 有里

私が担当している小舎には、特別支援学級に通っている子も多く、様々な課題を抱えている子ども達がいます。一つのことが出来るようになるまで時間がかかったり、人との関わりが上手でなかったり、こだわりがあったり……。そんな子ども達と生活を共にする中で、子ども達が一生懸命頑張る姿や成長を近くで見られることは、この仕事をしている中での私の喜びであり、元気をもらえます。小さな事でも、その子なりの頑張りの成長を嬉しく感じます。そして、子ども達と出来たこと、成長したことを一緒に喜びあえる瞬間はなによりも大事なひとときです。子ども達が日々成長する姿を見ていると、将来の可能性を感じ、どんな子になるのかと楽しみです。ここで生活している子ども達はいずれ施設を出て社会に出て行かなければならず、時には厳しいことも伝えていく必要があります。ですが、子ども達の可能性を信じて、時には寄り添い、時には叱りながら、これからも共に過ごせる日々を大切に一緒に未来へ向かっていきたいです。



長引く休校生活…
子ども達はそれぞれの勉強もよく頑張っていました。

恵まれた広いグラウンドで3密に気をつけながら
“やさかリンピック”で気分転換もしました！



コロナに負けるな！ 今だから未来への準備を！

リフレここのえ 施設長 横井 義広

世の中が新型コロナウイルスで騒然としています。この間子ども達は学校に行くことが出来ません。けれども、リフレここのえの子ども達は、元気に施設内の学童保育に通っています。出張がないので、これを機会に子ども達と何か新しいことを取り組もうと学童の職員と考えています。先日、Windows7のサポートが終了したパソコンが6台でました。これをどうするかということで考えていて、ひらめきました！ 2020年度から「プログラミング教育」が必修化されました。小学生と中学生は、今年度から全面実施になります。スマホ時代ですが、ビジネスにはキーボードが使えることは必須です。このパソコンを使ってタイピングの練習を始めます。今、子ども達は、ABCの歌♪の練習に早速取り組んでいます。ローマ字を覚えるためです。いずれ高校でも始まるので、アフターケアの子ども達が通ってきている「無料塾オリーブ八王子」でも塾長が準備を進める予定です。

また、子ども達に「本好き」になってほしいと願っています。そのために時間のあるこの時期に本を読んでもらいたいと思います。子ども達一人ひとりに本を選んでもらい、学童保育の時間に、10分間読書を行う予定です。職員は、子どもに読ませたい本を聞きながら購入を進めていきます。

学童遠足の様子



自分達でお弁当作りに挑戦～
タコさんウィンナー♪



秘密基地とツリーハウスを作ったよ！

リフレの学童室にはお友達とメッセージを伝え合うありがとうの花がたくさん咲きました🌸



みんなのためにしてくれた事や誰かに優しくされて嬉しかった事が書かれています♪

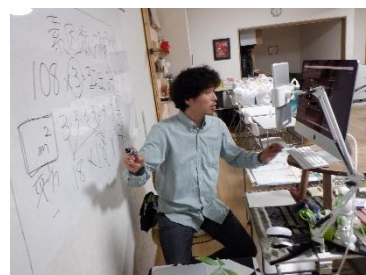


オリーブ八王子 web 授業の様子

在籍数	小学生：9名
	中学生：18名
	高校生：19名
	合計：46名
ボランティア講師	：4名



リフレの玄関が自動ドアになりました！
バギーも楽々です♪



オリーブみらい web 授業の様子

在籍数	小学生：3名
	中学生：7名
	高校生：7名
	合計：17名
ボランティア講師	：7名

※プライバシー保護の為写真を加工しています

リフレで過ごす2年間

リフレここのえ 母子支援員 野島 未央花

リフレここのえでは、入所1か月の自立支援計画をお母さんと一緒に立てる際に、いつもお母さん達の夢を伺っています。緊張した表情で自立のための目標を考えている時とはみなさん一転して、“子どもと海外旅行に行きたい” “資格を取ってやりたい仕事に就きたい” “子どもが大きくなったら一緒にショッピングに行きたい”等、顔をほころばせて未来の夢のお話をされるこの時を毎回私はとても楽しみにしており、リフレでの生活がそのための一助になるようにお手伝いをしていこう、と毎回気持ちを新たにしています。

この春入職3年目になった私は、先日初めて入所より2年間担当していた世帯の退所を見届けました。その方にとっては必ずしも順風満帆な2年間ではなく、リフレでの生活で親子ともに成長したとはいえ退所後にも向き合うべき課題があり、正直なところ担当として晴れやかな気持ちで退所の日を迎えられた訳ではありませんでした。しかし、入所間もなくに話して下さった夢を退所の時にも同じ熱量で話してくれるお母さんに、この家族にとってリフレでの2年間は、未来に最良の形で夢を叶えるための通過地点なのだということを思い出しました。大切な夢を諦めなくていい場所、いつか叶えるために力を蓄える場所。親子にとってリフレがそんな場所であるために今後も精一杯努めると共に、退所後のアフターケアも同じ気持ちで行っていこうと思いました。

夢作文

リフレここのえ 少年指導員 藤原 菜々

小学生の登校自粛期間が続く中、「夢作文」という宿題に取り組む子がいました。「もし自分がカラスだったら」「もし自分がマリオだったら」等々、ありあまる想像力を膨らませて、楽しい夢が描かれていました。そんな中、「将来はユーチューバーになりたい」と作文を書いた子どもがいました。その作文について一人の先輩職員が「この夢を叶えるためにはパソコンが使えるようになること、そのためには今学童で勉強しているアルファベットが役に立つね」とその子に話をしたそうです。目を輝かせ表情豊かに話を聞いていたその子は後日、平日の学童保育の最中に「俺、この学童に入れてよかった」と唐突に話し始めたのです。理由を聞くと、「将来パソコンが使えるようになるための勉強ができるから」と楽しそうに答えていました。きっと「今」自分がしていることが、なりたい「将来」に結びついたことに深く感動したのかな、と先輩職員と喜びました。今回の出来事は、職員として、また一人の大人として「何を伝えたら良いか」を日々考える学童保育の中で、行きつくのはやはり「この子にどのような大人になって欲しいか」であるということを確認するきっかけとなりました。今後も、あの先輩職員のように子ども達の未来が拓けるような関わりができる職員を目指しつつ、一人の大人としても、日々の生活から皆の将来を応援していきたいと思います。



てんとうむしの様子

リフレここのえ 母子支援員 内藤 珠美

子育て応援ひろば「てんとうむし」では 3 月中旬に入園用品作りを行いました。小さい赤ちゃんがいる家ではアイロンを出すことも大変なママが、てんとうむしでスタッフが赤ちゃんと一緒に遊んでいる間に旧職員の宮下さん、村谷さんと一緒にミシンでバッグやシーツなど入園用品を手作りしました。入園が決まった時、不安でいっぱいになっていると話していたママが、出来上がると入園が楽しみになったと笑顔を見せてくれました。

今年度も水曜日の午前中ひろばをひらいていきます。保育士さん、助産師さん、ネイリストさん、看護師さん、歯科衛生士さん、わらべうたや読み聞かせボランティアさんなど様々な人と繋がりができ、協力してもらいながら、イベントや八王子市と行っている子育て相談ひろば「ぽっけ2」などを行っていく予定です。赤ちゃんとの毎日は可愛い、楽しいことばかりではなく、時には孤独感を感じ寂しくなることを私自身経験しています。短い時間ですが、少し赤ちゃんを抱っこしてもらったり、お茶を飲んだりしてママが一息つき、また笑顔で赤ちゃんに向き合うことができるいいなと思っています。

**てんとうむしの広場です
ぜひ遊びに来て下さいね♪**



HP も見てね♪



子ども達と関わる事が好きな方、やりがいのある仕事に興味のある方



見学会は随時行っています。
詳細についてはマイナビにてHPをご確認ください。



※令和元年度の資金収支決算書は次号に掲載致します

～子どもたちのしあわせのために～

- 1 郵便振替 : 社会福祉法人同胞援護婦人連盟 00110-1-499359
- 2 ゆうちょ銀行 : 社会福祉法人同胞援護婦人連盟 019店 当座 0499359
 - ・折り返し当法人からの領収書をお送りします。
 - ・社会福祉法人に対するご寄附は確定申告で所得控除の対象になります。
 - ・住民税控除についてはお住まいの区市町村へお問い合わせください。

社会福祉法人同胞援護婦人連盟

児童養護施設 こどものうち八栄寮
母子生活支援施設 リフレここのえ
八王子市 子ども家庭サービス事業

〒193-0944 東京都八王子市館町 2232-1
Tel:042-661-5891 Fax:042-667-0006
<http://www.yasakaryou.or.jp>

編集後記

子どもも大人も我慢を強いられているせいか、なんだか世の中がギスギスしているように感じられます。しかしこのような大変な時代だからこそ心の余裕をなくさず、いつも以上に感謝の気持ちを持ち続けたいと思います。皆で力を合わせれば必ずこの困難を乗り越えていけると信じています。

【広報誌担当 坂本一人・西川翼】

ご意見・ご感想・ご質問を法人宛のお手紙または FAX でぜひお寄せ下さい。お待ちしております。

株式会社小笠原（八王子市子安町 2-12-1）様の印刷協力に感謝申し上げます。